

S I D R

滋賀県感染症情報

SHIGA Infectious Diseases Report

《週報》

第 5 巻第 34 号

第 34 週(8月 22日 ~ 8月 28日)

発行年月日:平成17年(2005年) 9月 2日

発行 行 :滋賀県衛生科学センター内
滋賀県感染症情報センター

電話 077-537-3051 FAX 077-534-3936

1)全数報告の感染症(1類~5類)

感染症類型	疾患名	報告数 (34週)	累積報告数		平成16年報告数	
			滋賀 (34週)	全国 (34週)	滋賀	全国 ^{(*)1}
1類感染症	報告なし	0	0	0	0	0
2類感染症	細菌性赤痢	0	^{(*)2} 6	359	9	576
	腸チフス	0	0	33	2	66
3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	1	11	2,190	21	3,640
4類感染症	E型肝炎	0	0	^{(*)3} 31	1	34
	A型肝炎	0	1	^{(*)3} 130	0	136
	オウム病	0	1	26	1	39
	デング熱	0	1	32	2	45
	マラリア	0	0	45	2	73
	レジオネラ症	0	1	142	0	162
5類感染症	アメーバ赤痢	1	3	454	8	580
	ウイルス性肝炎	0	1	187	5	299
	クロイツフェルト・ヤコブ病	0	1	94	0	167
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	0	0	40	1	53
	後天性免疫不全症候群	0	4	765	6	1,119
	ジアルジア症	0	0	44	2	85
	梅毒	0	0	345	4	516
	破傷風	0	0	66	2	100
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	0	2	49	0	49
急性脳炎	0	2	^{(*)3} 129	1	164	

*1:平成16年報告数の全国報告数は、滋賀県で報告された疾患を対象としています。
*2:検疫法第26条の3に基づく検疫所長から滋賀県知事への通知分2件を含みます。
*3:平成17年第32週現在の報告数です(iDWR掲載の報告数を参考にしています)。

2)定点把握の対象となる5類感染症

(1)疾病別・週別発生状況(第29~34週、7/18~8/28)

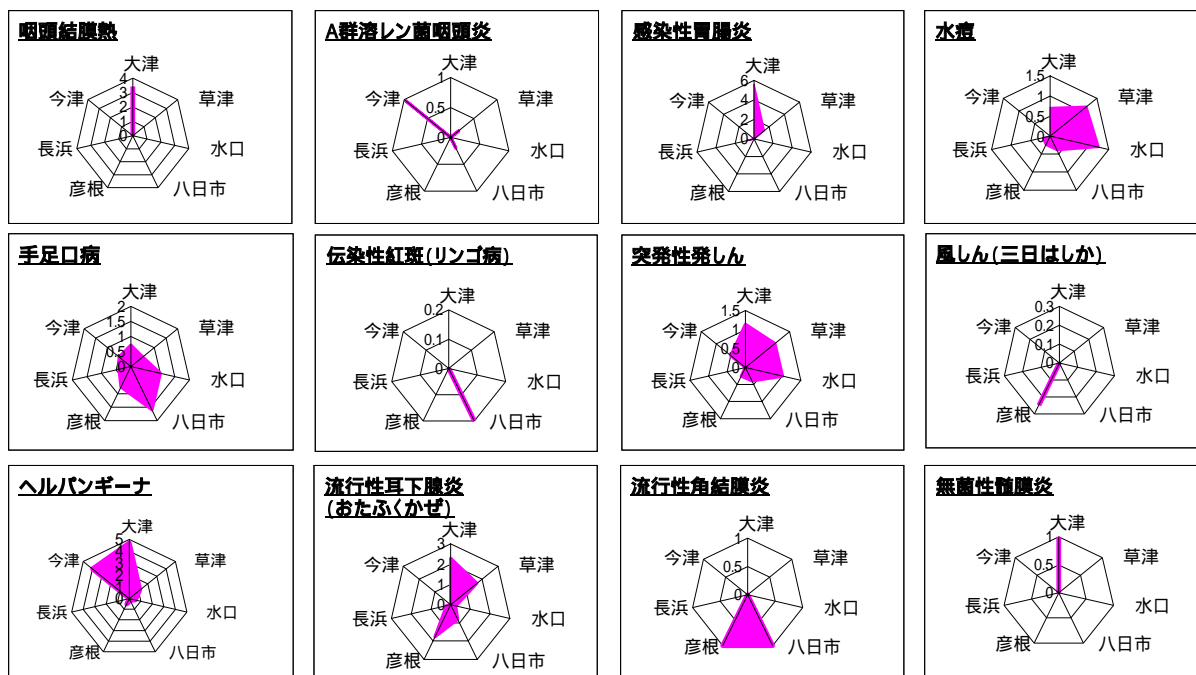
疾患名	定点当たり患者数(前週より増加 前週と同じ 前週より減少)										
	29週	30週	31週	32週	33週	34週	週				
	(7/18~)	(7/25~)	(8/1~)	(8/8~)	(8/15~)	(8/22~)	30	31	32	33	34
インフルエンザ	0	0	0.04	0	0	0					
RSウイルス感染症	0	0	0	0	0	0					
咽頭結膜熱	0.82	1.00	0.91	0.88	0.58	0.73					
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.30	0.03	0.61	0.24	0.03	0.12					
感染性胃腸炎	1.85	1.85	1.82	1.30	1.06	1.55					
水痘	0.94	0.55	0.48	0.48	0.55	0.64					
手足口病	1.15	0.82	0.91	0.55	0.70	0.79					
伝染性紅斑(リンゴ病)	0.09	0.21	0.06	0.03	0	0.03					
突発性発しん	0.48	0.70	0.55	0.48	0.64	0.67					
百日咳	0.03	0	0	0	0	0					
風しん(三日はしか)	0	0	0	0	0	0.03					
ヘルパンギーナ	4.39	4.12	3.15	2.67	1.33	1.61					
麻しん(成人麻しんを除く)	0	0	0	0	0	0					
流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	0.70	1.42	1.03	1.27	1.61	1.18					
急性出血性結膜炎	0	0	0	0	0	0					
流行性角結膜炎	0.71	1.00	0.14	0.57	1.57	0.29					
細菌性髄膜炎	0	0	0	0	0	0					
無菌性髄膜炎	0	0	0.43	0	0.14	0.14					
マイコプラズマ肺炎	0.14	0	0.14	0	0	0					
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0	0	0	0	0	0					
成人麻しん	0	0	0	0	0	0					

(2)疾病別・保健所管内別発生状況(第34週、8/22～8/28)

疾患名	定点当たり患者数(県・保健所管内別)							
	県	大津	草津	水口	八日市	彦根	長浜	今津
インフルエンザ	0	0	0	0	0	0	0	0
RSウイルス感染症	0	0	0	0	0	0	0	0
咽頭結膜熱	0.73	3.43	0	0	0	0	0	0
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.12	0	0.17	0	0.20	0	0	1.00
感染性胃腸炎	1.55	5.57	1.33	0	0	0	0.80	0
水痘	0.64	0.71	1.17	1.25	0.40	0.25	0.20	0
手足口病	0.79	0.71	0.50	1.00	1.60	0.75	0.40	0.50
伝染性紅斑(リンゴ病)	0.03	0	0	0	0.20	0	0	0
突発性発しん	0.67	1.14	1.00	1.00	0.40	0.25	0	0.50
百日咳	0	0	0	0	0	0	0	0
風しん(三日はしか)	0.03	0	0	0	0	0.25	0	0
ヘルパンギーナ	1.61	4.71	1.17	0.50	0.20	0.50	0	4.00
麻しん(成人麻しんを除く)	0	0	0	0	0	0	0	0
流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	1.18	2.29	1.67	0.25	0.80	1.75	0.20	0
急性出血性結膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0
流行性角結膜炎	0.29	0	0	0	1.00	1.00	0	0
細菌性髄膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0
無菌性髄膜炎	0.14	1.00	0	0	0	0	0	0
マイコプラズマ肺炎	0	0	0	0	0	0	0	0
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0	0	0	0	0	0	0	0
成人麻しん	0	0	0	0	0	0	0	0

疾患別・保健所管内別発生状況(定点当たり患者数)

戻る



今週の発生状況：

保健所管内別の定点当たり患者数は上記のグラフのとおりです。咽頭結膜熱は先週に引き続き大津で多くっており、水痘は草津および水口で先週より増加しています。突発性発しんは大津、草津および水口でやや多くなっています。また、伝染性紅斑は八日市から、風しんは彦根から、無菌性髄膜炎は大津から報告されています。

- 全数報告感染症 -

滋賀県内の医療機関において、医師が感染症法で定められている一～四類および五類感染症に該当する患者を診断したとき医師は保健所に届出ることになっています。届出により、滋賀県内で発生している感染症法で定められた一～四類および五類感染症を把握することができます。これを全数報告の感染症といえます。

* 感染症法: 感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律

- 定点当たり患者数 -

感染症発生動向調査事業に係る報告のために、滋賀県が指定した「指定届出機関」を定点医療機関(定点)といい、一週間の単位として一カ所の定点から何人の患者が報告されているかを示したものです(患者報告数/定点医療機関数)。

例えば、一つの疾患(インフルエンザ等)について、一週間に53カ所の定点から総数53人の報告があれば、定点当たり患者数は1.00となります。

* 疾患により定点数は異なります。

3) 今週のトピックス

感染症発生動向調査におけるウイルス病原体情報

定点把握の対象となる5類感染症の発生状況は、先週(8月15日～8月21日)の報告数よりやや多くなっており、咽頭結膜熱、感染性胃腸炎、手足口病、ヘルパンギーナ等の発生は増加しています。流行性耳下腺炎および流行性角結膜炎の発生は減少しています(詳細については、疾病別定点当たり患者数のグラフ参照)。

また、全数報告感染症については腸管出血性大腸菌感染症1名およびアメーバ赤痢1名の届出がありました。

感染性胃腸炎については、第26～33週(6/27～8/21)の点当たり患者数は2.15～1.06で推移しており昨年とほぼ同様の発生状況となっていますが、今週は先週の定点当たり患者数1.06より増加し1.55となっています。特に大津保健所管内の定点当たり患者数は5.57と多くなっています。

手足口病については、第28週(7/11～7/17)以降減少傾向を示していましたが今週も先週に引き続き増加し、水口および八日市保健所管内からの報告が多くなっています。

ヘルパンギーナについては、第29週(7/18～7/24)以降減少傾向を示し先週の定点当たり患者数は1.33となっていました。今週はやや増加し1.61となっています。特に大津および今津保健所管内で多くなっています。

流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)については、先週の定点当たり患者数1.61より減少し1.18となっていますが、大津、草津および彦根保健所管内では多い状態が続いています。

感染症発生動向調査におけるウイルス病原体情報(検体採取月:平成17年1月～7月)

疾患名	分離されたウイルス型	検体由来人数							材料
		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	
インフルエンザ	インフルエンザウイルス AH3型		3		3	2			咽頭ぬぐい液
	インフルエンザウイルス B型	2	10						
咽頭結膜熱	アデノウイルス 2型						1		咽頭ぬぐい液
	アデノウイルス 3型	1							
感染性胃腸炎	ノロウイルス		2						糞便
	A群ロタウイルス			3			2		
	アデノウイルス型不明						1		
無菌性髄膜炎	コクサッキーウイルス B4型		1						髄液
	コクサッキーウイルス B2型							1	咽頭ぬぐい液

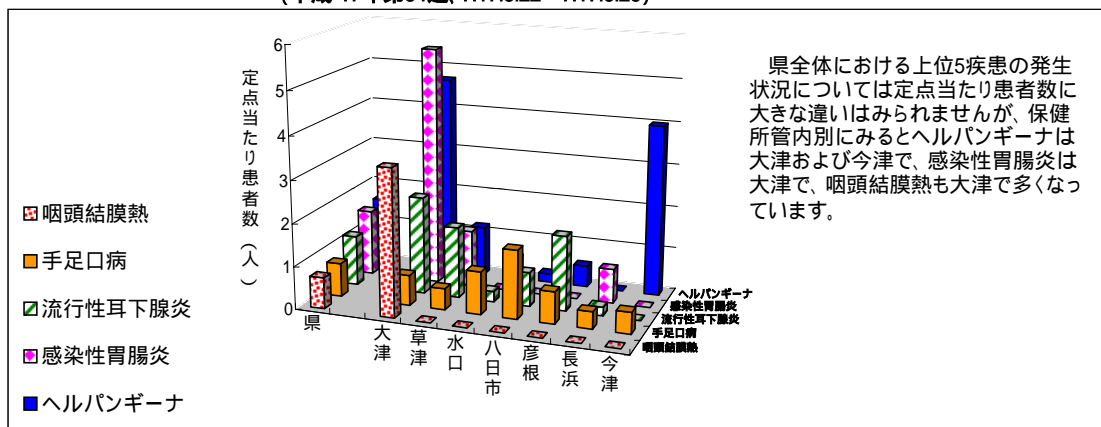
上記の表に示した疾患以外の病原体情報

1～7月に、病原体定点において採取された上気道炎患者の咽頭ぬぐい液からアデノウイルス1型が2件、アデノウイルス2型が2件、アデノウイルス6型が1件分離されています。下気道炎患者の咽頭ぬぐい液からアデノウイルス1型が1件、アデノウイルス2型が3件分離されています。

また、下痢症患者の糞便からノロウイルス3件、A群ロタウイルス3件が分離されており、嘔吐症状患者の糞便からノロウイルス1件が分離されています。

定点把握の対象となる5類感染症における上位5疾患の保健所管内別発生状況

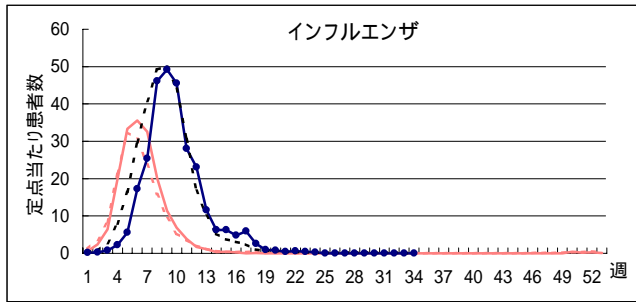
(平成17年第34週、H17.8.22～H17.8.28)



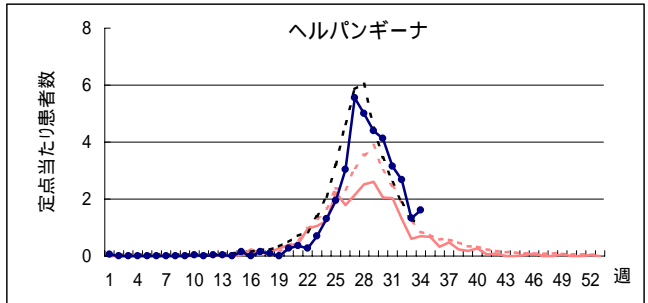
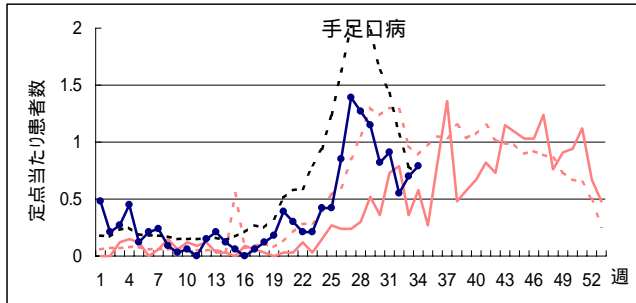
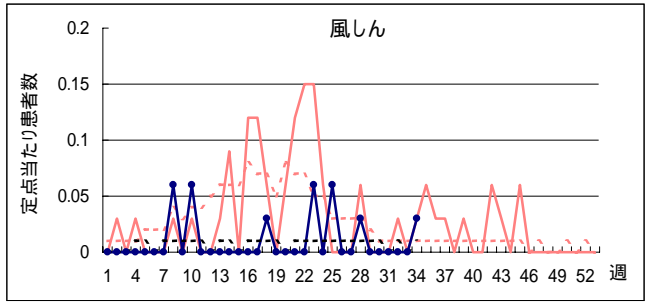
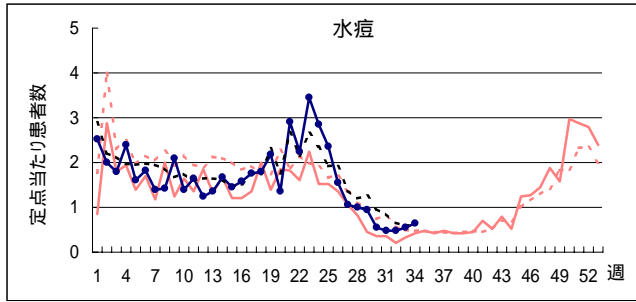
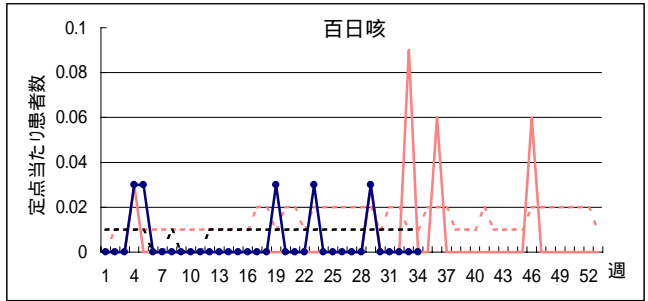
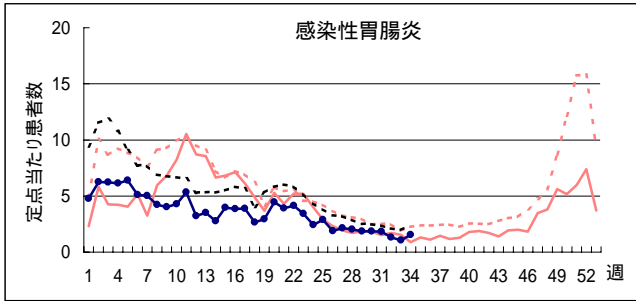
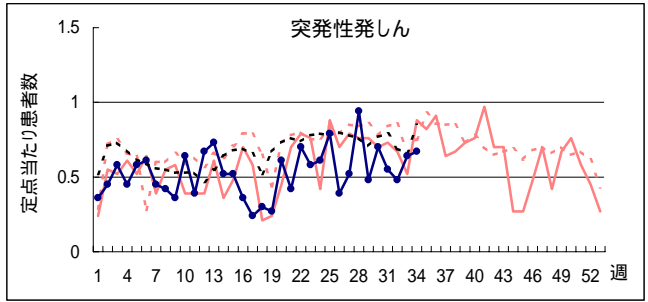
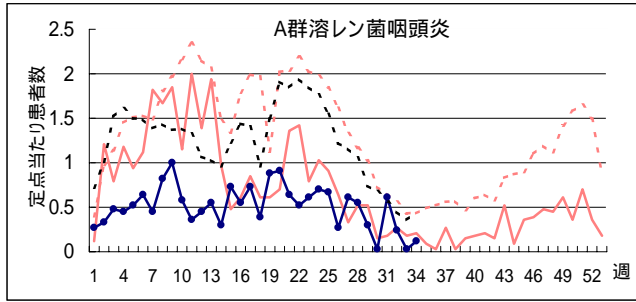
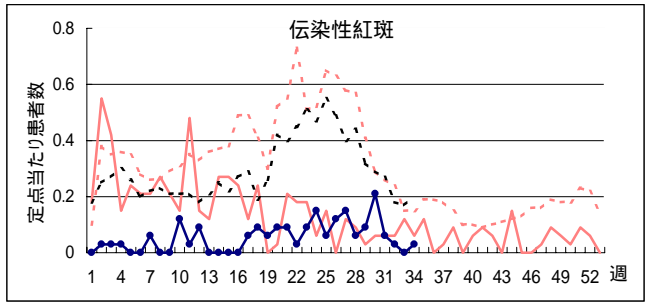
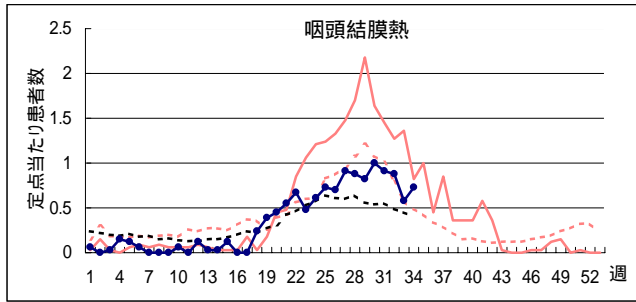
県全体における上位5疾患の発生状況については定点当たり患者数に大きな違いはみられません。保健所管内別に見るとヘルパンギーナは大津および今津で、感染性胃腸炎は大津で、咽頭結膜熱も大津で多くなっています。

全国集計などの詳細な集計結果は、国立感染症研究所感染症情報センターのホームページ(<http://idsc.nih.gov.jp/index-j.html>)において公表されています。

疾病別定点当たり患者数(平成17年第1週～第34週、H17.1.3～H17.8.28)



H16 { 滋賀 ————
 全国 ······
 H17 { 滋賀 —●—●—
 全国 ······



疾病別定点当たり患者数(平成17年第1週～第34週、H17.1.3～H17.8.28)

H16 〔 滋賀 ———— 全国 〕
 H17 〔 滋賀 ●——● 全国 〕

